

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770800431		
法人名	医療法人 日新会		
事業所名	「至福の郷」グループホーム東町 だんらんの家		
所在地	福島県喜多方市字石田4041-1		
自己評価作成日	平成25年11月1日	評価結果市町村受理日	平成26年3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成26年1月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様と職員が一緒に楽しむ事に毎日努めており、御家族、親戚、知人の方との関わりを一層深く信頼を持って頂ける様、長い時間経過して頂いている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 利用者地域との関わりを大切に、ボランティア、体験学習、保育所との交流や地域の行事に事業所を開放するなど交流を図っている。
2. 利用者の思いや意向を把握するため聞き取り調査を実施し、意向や要望に沿った支援に努めている。
3. 全職員参加型の法人研修や事業所ミニ研修を毎月開催し、職員の資質の向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で生き生きと暮らしていける様理念を作り苑内にて無理のない生活リハビリを行って頂く様努めている。	職員全員で介護理念を作成し、事業所内に掲示し、確認しながら理念に沿った支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入させて頂いている。毎年、夏祭り、芋煮会に参加し、地域の方に月2回硬筆に来て頂いている。区長様に施設のふろさと新聞を配布して頂いており施設の様子を地域の方にお知らせしている。	地域の自治会に加入し、地域の夏祭りや歳の神など事業所の敷地を利用いただきながら交流している。また、ボランティア、中学生の職場体験を受け入れ、事業所の広報を自治会を通して地区の各家庭に配布して頂くなど交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成研修に参加している。今後地域の方に認知症になっても安心して暮らせる町としてサポーターに1人でも多くなって頂ける様区長様の協力を得ながら今後努めて行きたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	会議の中で現状報告し、その都度意見を頂きサービスの向上に努めている。また困っている案件について持ち帰って頂きケア会議を開催し解決に向け協力して頂いた。	運営推進会議は定期的開催されている。会議では事業所の取り組み状況などの報告、サービス事例を通し意見やアドバイスを頂きサービスの向上に活かすよう努めている。	運営推進会議の中で、外部評価や防災訓練などの報告や意見を頂き、頂いた意見や提案についての取り組み、進捗状況など、委員がモニター役となって頂けるよう取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会、グループホーム練絡協議会、認知症サポーター養成推進事業の開催で協力関係を築く様努めている。	利用者の困難事例や利用者情報について、相談連携を図り、課題解決に努めている。また、各種会議や研修などを通し協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内研修で学習し身体拘束のないケアに努めている。また精神的弊害には十分気をつけてケアに努めている。	法人研修や事業所のミニ研修を通して、身体拘束の具体的な行為やその及ぼす影響について理解と共通認識を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内研修で学習し特に心理的虐待には職員間で意識を持つ様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性のある利用者様がまだいない為、支援は行っていないが後見人制度の資料などで理解する様に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の契約時に十分説明し理解した上で契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時、話しやすい雰囲気作りに心がけている。また、日々の関わりの中で利用者様の気持ちを声に出出来る様確かめている。	日頃の生活での関わりの中や聞き取り調査で利用者の思いを把握し、家族には面会時などに意見や要望を聞き、出された意見や希望を運営に反映するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議で職員の意見、要望を出しあえる機会を作りまた、日々の申し送りで職員の気付き等話し合い、運営やケアサービスに反映出来る様努めている。	職員会議や日々の業務の中で職員の要望や提案を聞き、会議などで検討しながら運営に反映できるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表で職員の意識を高めてもらい、コミュニケーションを大事にしている。介護職員処遇交付金を処遇改善手当として支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な法人の研修と外部研修も選びながら参加し、また、事業所内勉強会を行いケアの質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連法人とのグループホームの管理者会議を毎月開催し管理者同士の情報交換をしている。同法人職員が1日交換研修を行い互いのケアについて学ぶ事が出来る様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族より入居前の状況、状態を伺いケアサービス内容に反映出来る様にしている。本人の表情、動作に目を配り、耳を傾け、自尊心を傷つけない様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査、契約時に、介護の経過、現在困っている事、不安に思っている事を聞き家族の思いが反映出来る様、また信頼関係が築かれる様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様と本人様の話しを聞き納得したサービスが出来る様努めている。今後の事についてのサービス利用について説明させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の家事全般において皆さんと一緒にっており、お互い協力し合い楽しんで行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の生活面、身体面、受診結果報告をさせて頂き行事への参加、また、来所時ゆっくりとして頂く様配慮しながら職員とも話しが出来る雰囲気作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚、知人の方がゆっくり出来る様お茶と一緒に飲んで長い時間を過ごして頂いておりまた、親戚宅で半日過ごされたり入浴しに出かけたりと思いを叶えられる様努めている。	友人や知人、家族の面会が多く、ゆっくりくつろいで頂けるよう配慮している。家族と温泉や買い物、喫茶店に外出したり親戚を訪問するなど、継続的に交流ができるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士会話が繋がらない時職員が常に話しの橋渡しをしながら皆様に声掛けをし誤解のない様、また言葉を発する事が出来る様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により退所になられた利用者様の様子伺いに顔を出したり、家族の方と話をさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の日常の様子や言葉で気付いた事があれば申し送りの時間や職員会議で話し合い、思いや意向に添える様努めていきたい。	日頃の生活での関わりの中や聞き取り調査で利用者の思いや意向を把握し、全職員で話し合い情報を共有しながら本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の聞き取り、また、入所されてよりの家族からの情報、本人様との会話の中で新しい情報など感じ取られ経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々一人ひとりの状態を見守り見極めながらその方の生活リズムで過ごして頂く様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、家族、職員が共有できる様ケアに対する意見交換をしよりよいケアが提供出来る様努めている。	利用者からの聞き取り調査や家族の意向、日々の介護記録、申し送り記録などを基に、全職員で話し合い検討し介護計画を作成している。モニタリングも毎月実施し現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録、チェック表、申し送りノートの活用により情報を共有している。また、ミーティングや職員会議等のモニタリングで、ケアの改善、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院された利用者様の洗濯物など施設対応にさせて頂きながら細目に行き本人様の様子を見る様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事、イベントに参加しボランティアの訪問、保育所との世代間交流など出かける機会を多く設け心豊かになる様努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様と家族の方が安心出来る受診の継続、意向を確認しながら希望の病院の受診を支援している。変化のある時は家族の方に同行して頂き状態を知って頂く様に努めている。	受診は、本人、家族が希望するかかりつけ医とし、通院支援は事業所が行っている。状態等が変化した場合は家族にも同行を願い、適切な医療が受けられるよう支援している。受診結果は電話やお便り等を通して共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回訪問看護師に来て頂き報告、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報を提供し伝達している。病院に職員が出向き回復状態の把握や家族と連絡を取り合い、状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設として対応出来る身体状態をケアをしながら医師に報告、相談して行く。家族の方と話し合いを多く持ち職員全員と共有出来る様に努めている。	重度化・終末期ケア対応指針について、事業所のできることに本人・家族等に説明し共有している。支援にあたっては主治医や協力医療機関と、家族の協力を得ながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が救命講習を受けている。年1回消防署において3日間の救命救急普及講習会の研修にも積極的に受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、通報訓練を行っている。区長に連絡が行く様になっており区長より同地区の方に連絡が行く様になっている。今後地区消防団の方とも連携をとれる様努めて行きたい。	日中火災を想定した消火、避難、通報等の訓練を実施しているが、地震や水害等を想定した訓練は実施していない。また、地域住民との連絡体制は整備されているが、地域住民の参加や協力を得た訓練はされていない。さらに災害に備えた食料などの準備がされていない。	火災の他、地震や風水害など昼夜を想定した訓練を、地域住民の参加と協力を得ながら実施して欲しい。また、飲料水の他に主食となるような非常食の備蓄もして欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の背景を知る事、性格、行動、言葉、表情を見て気持ちに添う様に、その方に合わせた言葉掛けに努めている。	誇りやプライバシーを損ねない接遇を心がけており、職員の利用者への話し掛けや、トイレ誘導の声掛けなど、十分な配慮が見られる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思い、希望を言葉として表現出来ない事が多い為、話の内容も色々な面から持っていく中で見つける様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	皆さんが職員や他の利用者様との関わりを持つ様にしている。一人で過ごしたい時には本人様にお任せしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日が同じ服にならない様にしている。ボタンの掛け違い、ズボンの前後、洋服の裏表など十分気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事の準備は毎日必ず皆さんにまんべんなく行って頂いている。餃子作り、お稲荷さん作りは特にみなさんが力を発揮出来るメニューであり楽しく行って頂いている。	野菜の皮むきや芽摘み等の下処理や後片付け等、食事に関連した作業を利用者全員で行っている。また、餃子作りやいなり寿司作り等の場面作りをして、作る楽しみを味わいながら、利用者個々の能力が発揮できるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事に表に記入しており、解る様にしている。食器の形態、食器の色、食事用エプロンなど個人個人に合わせて使用している。量、味についても本人様の要望に合わせている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後嗽をして頂く。就寝前は特に入歯の洗浄、嗽、歯ブラシでの清掃を声掛け見守りの元行い自立されている方には任せている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつ使用の方はいない。一人ひとりの排泄の力に合わせトイレでの排泄を行っている。尿意のある方は本人に任せている。時間で声掛けし気持ちよく排泄出来る様にしている。排便は確認させて頂いている。	排泄チェック表でパターンを把握し声かけを行い、トイレで排泄するよう支援しており、オムツを使用している利用者はいない。また、誘導や介助、失禁時対応にあたっては、羞恥心への配慮やプライドを損ねない声掛けをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材や水分、身体を動かす事で自然排便を促す様に心掛けている。排便の間隔を見ながら下剤の量をその都度調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日曜日を除き毎日入浴が出来る。日中の入浴になるが利用者様は大変喜んでおり安全に十分注意し気持ちよく入浴して頂いている。体調に合わせて足浴、シャワー浴、清拭と無理をしない様努めている。	週3回以上、本人の希望やタイミングに合わせた支援をしている。また、リラックスして楽しく入浴をして頂くよう、見守り職員と歌を歌ったり、昔の話をしたり、ゆず湯などを取り入れながら支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝は皆さん取って頂いている。下肢の状態を良くする為でもある。夜の就寝時間は利用者様に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更された時は十分気をつけている。受診記録はかならず目を通し受診内容を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中での仕事をその方なりに行って頂き直す事はせず出来た事に対する感謝と称賛で喜びを感じて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠出は職員だけでは中々頻回には難しいが、天気の良い日は適度な距離を散歩している。近くの店に行き喫茶を楽しむ事もある。家族の方が協力的でありドライブに行かれている。職員より家族の方に働きかけをしている。	菜園で野菜作りをしたり、近隣への散歩や喫茶店に向いてお茶を楽しむ等、利用者の状態や希望に合わせて外出支援している。また、家族の協力を得ながら買い物、ドライブ、温泉入浴等の外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に執着する方もおられ個人で持つ事は問題になる事が多い様なので職員預かりで行っている。希望があれば一緒に買い物をしたり施設の買い物を一緒に出かけたりする様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のやり取りは子機を使用し自室にて会話出来る様にしている。娘さんからのハガキを本人様に渡し喜んで頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	目にやさしい緑の観葉植物や季節の花などを置き、また、季節に合わせた飾りなどで楽しんで頂き刺激となる様な事は混乱を招く為十分気をつけている。	食卓に生花を生けたり、木の枝に団子等を飾り付けた季節感あふれる飾り物や、観葉植物等を置いて家庭的な生活空間となっている。また、共用空間は除菌器具が配置され清掃が行き届いており清潔感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室であり静かに読書、スケッチ、写経、計算ドリル、日記など思い思いに自分の時間を使われている。また、部屋を訪ね会話を楽しまれており見守り支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	現在の部屋が馴染みの部屋であり自宅で使用されていた物を持って来ても違う景色となり必ず安心するとはいえない。今の物を飾る方が自分のものとして見ている様であり落ち着く場所となっている。見守り支援する様努めている。	本人の希望に合わせ、机や椅子、家族写真やぬいぐるみ等が持ち込まれ、花や自分の作品等を飾り安心して過ごせる環境となっている。また、塗り絵や写経、生け花を楽しむ等、その人らしく暮らせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は複雑な構造ではない為動きやすい、自室戸口にぬいぐるみや造花を飾り解り易くしている。危険なものはすぐ排除している。		